

《資料紹介》

宮大工関係資料(大工道具類)について

湯川 洋史

1. はじめに

本稿は令和4年に寄贈を受けた宮大工関係資料の内、大工道具について紹介するものである。本資料群は大別すると、師匠筋の文書を含む古記録類と、実際に使用した大工道具類の2種に分けられる。その資料的性格から、当館では古記録類は歴史分野(文献史学)が、大工道具類は民俗分野が、それぞれ収蔵している。古記録類については、すでにその一部が公表・活用されている(注1)。

本資料は、2代にわたり宮大工を生業とした家の旧蔵資料である。初代は元々醤油屋をしていたが、明治維新後職業を変え、大工となった。この時、弟子入りしたのが水民元吉だったという。2代目は明治28年(1895)に生まれ、熊本県立工業学校(現・県立工業高等学校)に通い、大工となった。

大工道具類は、大工道具箱10箱にそれぞれ入っていたものと箱外に収納されていたものに分けられ、箱を含めた総件数は323件だった。大工道具箱のいくつかには側面に紙が貼られ、そこにアラビア数字の通し番号が付されている。それによると16番まで通し番号のあったことが知れるから、現状確認できる道具箱以外に少なくとも6点ほどあったものと思われる。箱には「昭和12年」、「昭和10年」作成とあるものもあるから、箱を新調し、処分した可能性も考えられる。

また、1代目と2代目の道具が混在している可能性、古記録同様に師匠筋の道具が混在している可能性もあり、これが明治28年生まれの子孫だけの道具なのか、そうではない

ののではないか、判断を下し難い状況にある。

そのため、大田区で昭和18年におこなわれた標準編成第一形式との比較や、桃山天満宮の大工道具との比較など、先行事例との比較が難しく、かつ熊本の宮大工の大工道具の編成を考える上でも使用時期、使用者が特定できないという事情から、そういった方面での寄与はなかなか難しいと言わざるを得ない。そのような理由から、本稿はあくまでも市内宮大工の使用道具の一例を提供することにとどまるものであることを明言しておく。

2. 道具の構成

既出の通り、大工道具は10箱、箱以外の裸の状態の道具があった。全体では箱を除くと324点の道具があり、その内訳は、鉾1点、鋸類23点、鑿類75点、鉋類58点、槌類8点、錐類30点、儀礼用5点、墨掛57点、その他67点である。

点数上は標準編成第一形式より多いが、内訳を見ると偏りが見られる点に構成上の特徴がある。例えば斧や大型の鋸類(挽割鋸や穴挽鋸)、鼠歯錐が見られない。一方で、鉋類と鑿類が多く、特に裏丸鑿は30点ある。

ただ、上棟式に用いられたと思われる儀礼用道具に欠が見られることから、この構成上の偏りが、仕事上の特色によるものなのか、伝来の最中に失われた結果なのかは現時点では判然としない。すでに言及した道具箱の貼り紙通し番号を見るに、伝来の最中で失われたものがあつたと推定した方が現時点では妥当と思われる。

また、墨掛道具の点数が多いのは、墨指や墨といった消耗品が多く存在するからで、構成的な特徴を見ることはできない。

ほか、マイナスドライバーやニッパー、レンチ

などの工具も見られる。この辺りは新しい道具で、使い勝手の良いものを選びながら取り込んでいったことを示すものと思われるが、この点を明らかにする知識も情報も現在持ち合わせていないため、構成上そうしたものがあることを指摘するにとどめておく。

3. 各道具について

本章では各大工道具について述べる。道具は目録に法量、写真を付して掲載しているので、詳細についてはそちらを参照していただきたい。

(1) 大工道具箱

すべて木製で、被せ蓋とスライド式の蓋の2種がある。いくつかの蓋には製作年があり、大工自身が製作したことが知れる。紙が側面に貼られ、アラビア数字で番号が付されたものもあり、中には側面天・地に持ち上げやすいように棧(取手)が後補されたものも見られた。番号については仕事上、入れている道具が分かるように分類したものかと思われるが、その点判然としない。

(2) 鉦

直刃の鉦である。斧類がほかに見られなかったため、儀礼用かと思われたが、装飾はなく、柄が使用によって摩耗していることから実際に使用していたものと推定する。

(3) 鋸類

鋸の構成は挽切鋸8点、糸鋸2点、鴨居挽鋸3点、胴付鋸1点、引廻し鋸5点、鑿3点、両刃鋸1点である。先述したように大型鋸が見られない点に特徴がある。これらの鋸には木製の鋸の刃先を覆うカバーが付属していた。だが、中には明らかにサイズが合っていない

ものもあり、カバーに書かれた情報をそのまま信じることは難しい状況である。ただこの内1点に「木下音八」と墨書のあるものがある。この人物の詳しい来歴などは不明だが、歴史分野が収蔵した古記録類にも名前が見え、同門と思われるから、古記録だけでなく、道具に関しても何かしら受け継いだものがある可能性がある。目録には記せなかったが、1代目の名前が彫られた鋸もあり、少なくとも1代と2代の道具が混在している可能性は高そうである。

また、鋸身に鍛冶師の名前が見えるものは全20点中15点ある。この内、製作年代も分かるのは挽切鋸と鑿各1点で、それぞれ「延寿信繁」が大正7年10月と同10年10月に製作したものである。延寿信繁作の鋸はほかに9点ある。先の2例と併せると11点で、その内訳は鑿3点、鴨居挽鋸2点、挽切鋸6点である。

延寿信繁(注2)について現状分かることは何もない。「東肥熊府住」や「熊本住」とあることから、熊本在住の鍛冶師だったということが推測できる程度である。「延寿」と言えば、菊池に住んだ刀鍛冶の一派が想定される。だが、庇護者の菊池氏衰退後は野鍛冶化したといわれる彼らの活動については研究も乏しいからはっきりしたことは言えない。(注3)ここでは延寿を名乗る野鍛冶によって製作された鋸を愛用していた程度にとどめておくべきだろう。

ほか鋸柄が作り直されたものや、鋸身を詰めたものか製作者の銘が柄部分に一部沈んでいるものも見られた。先に見た木製カバーの墨書と併せると、一部引き継いだ道具を補修しながら使用した可能性が考えられる。

(4) 鑿類

鑿類は10点、叩き鑿21点、蟻鑿7点、裏

丸鑿 30 点、鋸鑿 1 点、鐔鑿 2 点、向う区鑿 4 点という構成である。内、叩き鑿には本叩き、広鑿、中叩き、大入とあったが、判断のつかないものもあったため、すべて叩き鑿とした。また、突鑿の一部には薄鑿も含まれるものと思われたが、こちらも判断がつかないものがあったため、すべて突鑿とした。

すでに述べたように、裏丸鑿が 30 点を数えることは特徴的だが、聞いた限りでは数寄屋大工でもなかったというから、裏丸鑿が多い理由はよく分からない。

銘の見られるものもあったが、かなり摩耗しているものや錆が付着したものが多く、銘についてはほとんど確認できなかった。中には規格品もあるものと思われる。

(5) 鉋類

平鉋 10 点、決鉋 24 点、内丸鉋 3 点、外丸鉋 5 点、敷居・鴨居用鉋 2 点、反り台鉋 2 点、台直し鉋 2 点、面取鉋 3 点、脇取鉋 7 点という構成だった。

この内、決鉋については判然としなかったものもあったため、底決鉋と機械決鉋も含んで一括で決鉋として集計している。また、決鉋は西型、東型、大阪型、鑿型と分類されるようだが、本資料群ではそれぞれが確認でき、その分類で把握することの意義を見出すことができなかったため、特に目録などには掲載していない。

本資料群の鉋の特徴として、決鉋、敷居・鴨居用鉋、面取鉋、脇取鉋に既製品ではなく大工自身による製作のものが見られた点が挙げられる。そのため、刃にはヤスリや鑿、金属製定規を転用したのものが見られ、独特な造りとなっている。また、平鉋などの刃が動かないよう紙を台に貼り付けて、間を詰めている点も

特徴的といえそうである。

鉋身の多くは 2 枚刃で錆と摩耗のため、銘自体を確認できるものは僅少である。それらも既製品と思われるものが過半であり、鋸と異なり、鍛冶師について述べるのは難しい。

(6) 槌類

槌類は片口玄能 2 点、両口玄能 3 点、先切金槌 1 点、下腹金槌 2 点で構成されている。だが、玄能と金槌の使い分けについては不明なところもある。

(7) 錐類

丸錐 1 点、壺錐 8 点、三ツ目錐 6 点、四方錐 3 点、ハンドル錐関係 6 点、ポールト錐 6 点という構成である。全体数から考えると壺錐と三ツ目錐が多く、鼠歯錐は見られない。壺錐を除いたほとんどは既製品である。

(8) 儀礼用道具

儀礼用道具として、上棟祭関係の道具がある。だが、それもすべてが揃っているわけではなく、失われたものと思われる。

(9) 墨掛

曲尺や自由がね、スコヤといった定規類、罫引き、下げ振り、二丁白書、墨壺など一式が見られる。ただ箴定規や口引きなど見られない道具もある。

(10) その他

ドライバーや釘締、ヤスリ、砥石、肥後守などである。欄間や木組みの習作と思われるもの、下図などもあるほか、レンチやニッパーなどの工具類も見られる。

造営に関わったものか、「藤崎宮神殿小妻破

風形」とある型がある。ただ、これが 2 代時代のものか、1 代か、はたまた師匠筋のものかは判然としない。藤崎宮の墨書がミセケシされていて、かつ「不用」とあるから、失敗したものかと思われる。

4. おわりに

ここまで当館所蔵の宮大工道具に関して記した。個人情報から伝来した家の名前を明確に記すことができなかった点は残念である。そうした配慮のため、画像や備考から個人の家が特定できるような情報は除いている。

はじめに、で記したように本資料群は古記録と併せて寄贈されたものである。大工道具類に関しては、私の知識不足が原因で整理や分類に時間がかかり、古記録に比して、ここまで公表が遅くなった。また、一部分類については専門外の人間には容易に判断がつかないものがあつた。その点不完全なものを公表することには抵抗を覚えたが、識者の目に入り、ご叱正、ご指導を賜る方が有益と考え、無謀を承知で今回作成し、公表した。当館にはほかにも未整理の大工道具があることから、識者によるご指導を切に望むものである。

また、本稿には目録を付すつもりだったが、紙幅の関係上目録を掲載することが難しくなつたため、紙ベースで読まれている方には申し訳ないが、当館 HP 上の館報掲載ページから目録付完全版をダウンロードしていただくと幸いである。

参考文献

公益財団法人 竹中大工道具館『常設展示図録』
2014
大田区立郷土博物館『大田の職人－その道具と造形』1985

福持昌之「桃山天満宮の奉納大工道具」『京都市文化財保護課研究紀要』2号 2019

(注1) 谷口征雅「現場レポート 熊本県 重要文化財阿蘇神社一の神殿ほか 5 棟「楼門の櫃割について①」『文建協通信』No.151 公益財団法人文化財建造物保存技術協会 ほか

(注2) 一部、信繁ではなく、繁信と彫られたものもあつた。

(注3) 『新熊本市史 通史編 近世Ⅱ』p.1060

箱						
番号1	番号2	資料名	点数	法量(mm)	写真	備考
0605	001	大工道具箱	1	635×170×135		側面に紙貼「3」
0605	035	大工道具箱	1	685×255×65		
0605	053	大工道具箱	1	400×195×125		蓋裏に「昭和十二年 一月」
0605	069	大工道具箱	1	670×235×155		
0605	093	大工道具箱	1	930×210×220		被せ蓋蓋裏「昭和十年十月」、側面貼紙「1」
0605	097	大工道具箱	1	670×270×175		側面貼紙「14」
0605	103	大工道具箱	1	656×250×155		側面紙貼「16」、蓋固定金具付
0605	118	大工道具箱	1	620×145×295		被せ蓋、固定用のロープ附属、箱側面貼紙「2」
0605	126	大工道具箱	1	680×273×170		側面貼紙「13」
0605	142	大工道具箱	1	650×270×200		
鉦						
番号1	番号2	資料名	点数	法量(mm)	写真	備考
0605	094	鉦	1	560×101		柄部に破損(ワレ・ヒビ)あり直刃
鋸						
番号1	番号2	資料名	点数	法量(mm)	写真	備考
0605	016	糸鋸	1	212×27		柄後部に穴を空け、針金を通す(法量には含めず) 柄:竹製
0605	040	引廻し鋸	1	600×24		
0605	070	挽切鋸	1	613×90		刃保護の木製カバー付、「延寿信繁作」
0605	071	挽切鋸	1	488×50		刃保護の木製カバー付、「延寿信繁作」

0605	078	糸鋸	1	470×96		
0605	095	挽切鋸	1	822×122		刃の木製カバー付 鋸身に「延寿信繁作」、「大正七年十月」
0605	096	挽切鋸	1	750×111		鋸身に「熊本住繁信」
0605	108	挽切鋸	1	500×52		柄の一部を後補力、木製カバー付
0605	109	鴨居挽鋸	1	600×47		木製カバー付「木下音八」と墨書有
0605	110	両刃鋸	1	535×53		鋸身に「伊■里吉作」、「作」が柄に一部埋もれているため、1度柄を作り変えるか、刃を短くしたか。両刃に木製カバー付
0605	111	鑿(かがり)	1	435×140		鋸身に「延寿信繁作」、木製カバー付、それに「■三年七月」、「延寿信繁 武永■■■■」
0605	144	鴨居挽鋸	1	485×77		鋸身に「繁信(花押)」、柄が縦方向に半分に割れている。(刃との接合部、釘は取れていないので分離してはいない)
0605	145	鑿(かがり)	1	528×135		鋸身に「延寿信繁作」「大正十年十月」
0605	146	鑿(かがり)破損	1	-		刃に「■■繁信作」とある。茎部分が腐食による折れ。「昭和四年」と墨書ある刃カバー付
0605	274	挽切鋸	1	735×30		鋸身に「東肥熊府住繁信(花押)」

0605	275	挽切鋸	1	633×50		鋸身に「山鹿住信治作」、柄一部後補、テープで補強
0605	276	鴨居挽鋸	1	490×82		鋸身に「延寿信繁作」
0605	277	胴付鋸	1	560×65		鋸身「登録商標 金平■」、カバーに「大正六年六月」
0605	278	挽切鋸	1	435×55		鋸身に「延寿信繁作」
0605	279	引廻し鋸	1	480×27		鋸身「重(花押)」
0605	280	引廻し鋸	1	510×23		
0605	281	引廻し鋸	1	370×30		
0605	282	引廻し鋸	1	217×22		

鑿

番号1	番号2	資料名	点数	法量(mm)	写真	備考
0605	003	蟻鑿	1	全長392×25 穂115 口金20 柄258 刃先25		
0605	004	裏丸鑿	1	全長228×27 穂97 口金18 柄115 刃先19 冠8×27		

0605	005	裏丸鑿	1	全長195×27 穂82 口金16 柄95 刃先32 冠11×27		柄一部破損(フレ)
0605	006	裏丸鑿	1	全長390×20 穂273 柄116 刃先9		
0605	007	裏丸鑿	1	全長216×23 穂75 口金18 柄117 刃先15 冠6×23		
0605	008	叩鑿	1	全長210×26 穂79 口金19 柄111 刃先9 冠8×26		柄に焼印の跡見えるもの有
0605	009	裏丸鑿	1	全長224×28 穂78 口金16 柄130 刃先22 冠7×28		柄に穴(貫通しており片側に錆があることから留め具等があったか) 柄一部破損(フレ)
0605	010	蟻鑿	1	全長377×17 穂255 柄122 刃先12		柄一部破損(フレ)
0605	012	裏丸鑿	1	全長187×18 穂92 柄95		
0605	013	裏丸鑿	1	全長191×20 穂82 口金15 刃先10		冠がついていないが、柄後部に打突痕あり 柄一部破損(フレ) 刃先一部ツブレあり
0605	014	裏丸鑿	1	全長103×16 穂104 刃先9		冠がついていないが、柄後部に打突痕あり 柄一部破損(フレ)
0605	017	裏丸鑿	1	全長187×22 穂52 口金15 刃先11 冠5×19		柄一部破損(フレ)
0605	018	裏丸鑿	1	全長203×27 穂74 刃先24		

0605	019	裏丸鑿	1	全長244×22 穂105 口金19 刃先15 冠8×18		
0605	020	裏丸鑿	1	全長172×16 穂77 刃先3		
0605	021	裏丸鑿	1	全長177×19 穂74 口金12 刃先8 冠21×8		
0605	022	裏丸鑿	1	全長171×20 穂74 刃先12		
0605	023	裏丸鑿	1	全長219×22 穂122 刃先6		
0605	024	裏丸鑿	1	全長192×24 穂95 口金14 刃先15 冠10×23		柄一部破損(フレ)
0605	025	裏丸鑿	1	全長223×18 穂95 口金14 刃先13 冠6×19		柄一部破損(フレ) 柄に虫損あり
0605	026	裏丸鑿	1	全長228×23 穂127 口金16 刃先10 冠23×8		
0605	029	裏丸鑿	1	全長270×19 穂106 口金15 刃先20 冠8×18		柄一部破損(フレ)
0605	030	裏丸鑿	1	全長164×18 穂64 口金15 刃先8 冠8×18		刃先一部にカケ
0605	031	突鑿	1	全長260×25 穂160 口金15 刃先15		

0605	038	裏丸鑿	1	全長175×25 穂67 口金18 柄90 刃先23 冠7×18		柄一部破損(フレ)
0605	057	叩鑿	1	全長247×22 穂120 口金19 柄108 刃先64 冠8		
0605	058	蟻鑿	1	全長168×15 穂97 柄72 刃先35		
0605	060	叩鑿	1	全長225×25 穂105 口金11 柄110 刃先10 冠7×34		
0605	061	蟻鑿	1	全長250×24 穂217 口金22 柄116 刃先22		刃先下裏に2文字あり。摩滅して見えず
0605	062	突鑿	1	全長327×27 穂145 口金20 柄165 刃先25		刃先裏に「藤信」
0605	063	突鑿	1	全長310×23 穂145 柄165 刃先14		
0605	064	突鑿	1	全長298×36 穂148 口金25 柄127 刃先36		
0605	065	叩鑿	1	全長273×35 穂122 柄153 刃先25 冠6×35		
0605	066	突鑿	1	全長215×12 穂124 口金13 柄82 刃先1		
0605	067	向う区鑿	1	全長242×17 穂126 口金18 柄100 冠6×17		

0605	068	裏丸鑿	1	全長257×21 穂130 口金16 柄108 冠7×20		
0605	086	叩鑿	1	全長195×37 穂88 口金24 柄85 刃先37 冠10×30		刃先裏に刻印あるも見えず
0605	087	叩鑿	1	全長188×28 穂85 口金23 柄82 刃先22 冠10×25		刃先裏に刻印あるも見えず
0605	088	叩鑿	1	全長65×23 穂72 口金19 刃先16 冠8×24		
0605	089	叩鑿	1	全長170×20 穂76 口金13 柄81 刃先10 冠6×20		
0605	090	叩鑿	1	全長147×22 穂55 口金15 柄82 刃先6 冠9×20		
0605	091	蟻鑿	1	全長180×22 穂80 口金11 柄83 刃先43 冠23×6		
0605	092	裏丸鑿	1	全長164×20 穂82 口金17 柄66 刃先31 冠11×20		
0605	098	突鑿	1	全長587×28 穂320 柄265 刃先15		刃の木製カバー付、穂と柄の接合が外れている
0605	099	突鑿	1	全長410×48 穂26 柄266 口金20 刃先50		刃の木製カバー付、柄にヒビ、ワレ
0605	100	突鑿	1	全長590×48 穂197 柄365 口金30 刃先48		刃の木製カバー付、甲表に「違い鷹羽紋 小山」

0605	101	突鑿	1	全長590×30 穂227 柄335 口金30 刃先25		刃の木製カバー付甲表に「違い鷹羽紋 小山」
0605	211	叩鑿	1	全長205×23 穂66 口金13 柄117 刃先12 冠23×6		
0605	212	向う区鑿	1	全長220×32 穂100 口金25 柄94 刃先8 冠30×5		
0605	213	裏丸鑿	1	全長217×23 穂103 口金15 柄100 刃先10 冠23×5		穂「■十文字」
0605	214	叩鑿	1	全長470×30 穂127 口金23 柄98 刃先23 冠29×7		
0605	215	叩鑿	1	全長237×15 穂120 口金6 柄106 刃先2 冠15×6		
0605	216	鐔鑿	1	全長155×20 穂52 口金14 柄90 刃先3 冠20×7		
0605	217	裏丸鑿	1	全長168×15 穂91 柄75 刃先4		
0605	218	叩鑿	1	全長245×35 穂105 口金25 柄113 刃先35 冠34×5		
0605	219	裏丸鑿	1	全長210×17 穂94 口金11 柄105 刃先7 冠19×5		
0605	220	裏丸鑿	1	全長213×18 穂102 口金15 柄97 刃先7 冠29×6		

0605	221	裏丸鑿	1	全長200×25 穂84 口金28(12 16) 柄90 刃先18 冠24×7		
0605	222	叩鑿	1	全長153×20 穂173 柄81 刃先23 冠19×5		
0605	223	向う区鑿	1	全長224×32 穂110 口金23 柄97 刃先7 冠32×11		穂「山源」
0605	224	叩鑿	1	全長253×28 穂130 口金20 柄105 刃先13 冠28×8		
0605	225	裏丸鑿	1	全長157×20 穂61 口金15 柄80 刃先11 冠20×7		
0605	226	叩鑿	1	全長180×16 穂82 口金15 柄85 刃先5 冠16×5		
0605	227	叩鑿	1	全長460×30 穂191 口金21 柄246 刃先15 冠29×20		
0605	228	叩鑿	1	全長224×18 穂108 口金12 柄95 刃先5 冠16×6		
0605	229	向う区鑿	1	全長202×25 穂87 口金17 柄98 刃先6 冠25×10		
0605	230	叩鑿	1	全長230×16 穂108 口金11 柄115 刃先2 冠16×5		
0605	231	叩鑿	1	全長257×30 穂130 口金25 柄104 刃先15 冠30×4		穂「請合 廣永」

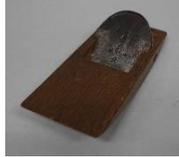
0605	232	叩鑿	1	全長271×50 穂139 口金29 柄105 刃先48 冠33×13		
0605	233	蟻鑿	1	全長171×18 穂94 口金14 柄64 刃先6		
0605	234	蟻鑿	1	全長201×17 穂96 口金15 柄90 刃先7		
0605	235	裏丸鑿	1	全長227×15 穂118 口金10 柄103 刃先3		
0605	236	鍔鑿	1	全長440×22 穂125(鍔65) 口金15 柄300 刃先12		
0605	237	突鑿	1	全長740×35 穂95 口金20 柄525 刃先35		鑿身、口金接合ハズレ
0605	255	鐔鑿	1	全長135×20 穂40 口金14 柄82 刃先3 冠20×7		

鉋

番号1	番号2	資料名	点数	法量(mm)	写真	備考
0605	049	台直し鉋	1	150×65×59		台にフレ
0605	072	平鉋	1	243×78×29		刃に錆付着
0605	112	平鉋	1	380×77×69		2枚刃、鉋身表に「熊本台 止■ 小山 保険請合」

0605	113	平鉋	1	247×72×67		2枚刃
0605	114	平鉋	1	253×82×81		2枚刃、鉋身表に「登録商標 正銘 請合 三郎撰台」
0605	127	平鉋	1	243×81×27		2枚刃
0605	128	平鉋	1	244×71×27		台一部損傷あり
0605	129	平鉋	1	244×75×27		鉋身に「登録」
0605	130	反り台鉋	1	215×71×34		台下部ワレあり
0605	138	底決鉋	1	240×32×67		
0605	139	底決鉋	1	244×13×66		
0605	140	脇取鉋	1	243×27×61		鉋身に「国次」
0605	141	脇取鉋	1	242×26×57		
0605	150	平鉋	1	243×70×27		1枚刃

0605	151	平鉋	1	240×72×26		2枚刃
0605	152	脇取鉋	1	245×63×31		
0605	153	底決鉋	1	261×70×18		
0605	154	底決鉋	1	244×67×20		
0605	155	蟻決鉋力	1	240×56×38		
0605	156	底決鉋	1	244×63×18		
0605	157	底決鉋	1	423×67×16		
0605	158	脇取鉋	1	242×46×23		底面湾曲
0605	159	敷居・鴨居用鉋	1	344×62×50		通常の台鉋の大部分に敷居などの溝用の角材を付ける。自作
0605	176	外丸鉋	1	181×31×29		2枚刃
0605	177	内丸鉋	1	183×39×26		2枚刃

0605	178	面取鉋	1	194×35×39		商品ラベル貼「ありがとう御座います 別撰 熊本市魚屋町一丁目 廣瀬商店 正値一円二十」、2枚刃
0605	179	面取鉋	1	155×34×25		1枚刃
0605	180	外丸鉋	1	248×44×40		2枚刃
0605	181	外丸鉋	1	242×60×34		2枚刃
0605	182	内丸鉋	1	208×58×25		2枚刃
0605	183	内丸鉋	1	218×65×24		2枚刃
0605	184	反り台鉋	1	155×66×17		刃に「別選 出来 商標 吉 屋号 (山大)」とあり、1枚刃
0605	185	台直し鉋	1	155×70×22		鉋身ハズレ、身「正鋼 紋(○に三) 三郎撰」、1枚刃
0605	186	外丸鉋	1	240×60×22		1枚刃、台カケあり
0605	187	外丸鉋	1	243×62×22		1枚刃
0605	188	平鉋	1	244×72×27		鉋身に「登録 紋(○に三) 正銘 三郎撰」2枚刃

0605	189	決り鉋	1	200×25×180		
0605	190	底決鉋	1	260×17×55		底面内丸
0605	191	決り鉋	1	190×28×138		刃に叩き鑿を転用
0605	192	決り鉋	1	190×15×140		刃に突鑿を転用
0605	193	決り鉋	1	165×24×105		刃に裏丸鑿の穂を転用
0605	194	決り鉋	1	180×25×140		刃に叩き鑿を転用
0605	195	決り鉋	1	245×15×90		刃に鑿の穂を転用
0605	196	底決鉋	1	235×20×80		
0605	197	決り鉋	1	175×20×115		刃に鑿の穂を転用
0605	198	決り鉋	1	160×30×180		刃に叩き鑿を転用
0605	199	底決鉋	1	240×15×65		

0605	200	底決鉋	1	240×15×65		
0605	201	脇取鉋	1	240×25×90		
0605	202	脇取鉋	1	165×25×100		
0605	203	決り鉋	1	190×12×120		
0605	204	敷居・鴨居用鉋	1	240×56×50		
0605	205	脇取鉋	1	245×30×90		
0605	206	決り鉋	1	180×18×53		
0605	207	決り鉋	1	215×36×60		刃に鑿の穂を転用
0605	208	決り鉋	1	20×35×55		刃に鑿の穂を転用
0605	209	面取鉋	1	182×50×70		2枚刃、裏金に金属製定規を転用
0605	210	機械決り鉋	1	210×95×85		

槌						
番号1	番号2	資料名	点数	法量(mm)	写真	備考
0605	036	片口玄能	1	298×85		
0605	037	先切金槌	1	240×114		
0605	041	両口玄能	1	297×83		
0605	076	片口玄能	1	265×92		
0605	077	両口玄能	1	280×80		
0605	162	下腹金槌	1	310×83		
0605	163	両口玄能	1	287×67		
0605	164	下腹金槌	1	235×65		
錐						
番号1	番号2	資料名	点数	法量(mm)	写真	備考
0605	015	ボルト錐	1	338×18		

0605	027	壺錐	1	150×22		
0605	028	壺錐	1	145×17		
0605	044	三ツ目錐	1	290×18		
0605	056	壺錐	1	165×20		
0605	059	壺錐	1	107×5		
0605	075	三ツ目錐	1	300×18		先端保護の木製カバー付、焼印「太閤錐」
0605	160	ハンドル錐(替刃セット)	1			布製容器付、「RUSSELL JENNINGS」、14点1セット中13点在中。
0605	243	壺錐	1	238×15		
0605	244	壺錐	1	253×15		
0605	245	壺錐	1	325×15		
0605	246	壺錐	1	300×15		

0605	247	四方錐	1	230×13		
0605	248	三ツ目錐	1	347×17		柄「カナナ用」
0605	249	三ツ目錐	1	316×17		
0605	250	三ツ目錐	1	301×15		
0605	251	三ツ目錐	1	305×17		
0605	252	四方錐	1	117×15		
0605	253	四方錐	1	127×32		
0605	254	丸錐	1	152×20		先端湾曲
0605	291	ボールド錐	1	490×265		ハンドル付
0605	292	ボールド錐	1	620×260		ハンドル付
0605	293	ボールド錐	1	680×290		ハンドル付

0605	294	ハンドル錐 (ハンドル)	1	380×105		木・竹製
0605	295	ハンドル錐 (ハンドル)	1	335×150		鉄製
0605	296	ボード錐 (持ち手)	2	160×30		297とセットか？
0605	297	ハンドル錐替え 刃	3	210×10		296とセットか？

儀礼用道具

番号1	番号2	資料名	点数	法量(mm)	写真	備考
0605	121	台脚力	1	243×80×20		折り畳み式
0605	122	神札	1	275×70×25		木製の木札に習字紙と水引が巻かれている。「手置帆負命 彦狭知命」
0605	123	幣束立 (幣束付)	1	465×85×65		
0605	124	儀礼用墨壺	2	212×43×115		

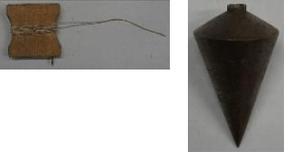
墨掛道具

番号1	番号2	資料名	点数	法量(mm)	写真	備考
0605	002	墨壺木枠 (箱型)	1	220×35×550		壺車・カルコ、廻し、池欠頭部両側面に使用・磨耗痕あり。片方は穴があいている。

0605	032	墨	1	50×50×15		被せ蓋式の金属製容器に入る。 墨と布。
0605	050	糸巻	1	120×34		針部に錆付着 カルコ附属(糸切)
0605	055	二丁白書	1	170×45		
0605	073	墨指	1	312×18		先端に墨、使用済
0605	074	墨指	1	285×12		両端に墨、使用済
0605	079	折尺	1	200×70		留め具の錆がひどく展開できない 一部亀裂在り
0605	080	曲尺	1	333×180		錆付着甚だしい、目盛も読めず
0605	081	墨指	1	222×20		全体に墨付着、一部破損(ワレ)あり
0605	084	墨壺	1	285×76		ハンドル錆付着、回らず。カルコ付
0605	102	筋罫引	1			刃部腐食破損
0605	104	墨指	1	224×17		

0605	105	墨指	1	197×12		
0605	106	墨指	1	237×14		
0605	107	墨指	1	235×19		未製品
0605	115	墨壺(箱型)	1	217×40×88		軽子附属、枠は自作
0605	119	墨指用竹材	2	275×15		未製品
0605	137	糸巻	3	-		木片に糸を巻いたもの
0605	147	墨指	1	205×10		
0605	148	墨指	1	145×10		
0605	149	墨指	1	180×10		
0605	161	水平器	1	306×21×39		金属製
0605	166	曲尺	1	273×124		金属製

0605	167	曲尺	1	495×243		金属製
0605	168	曲尺	1	495×241		金属製
0605	169	曲尺	1	495×244		金属製
0605	170	スコヤ	1	124×95		金属製
0605	171	定規	1	117×13		金属製、フレ一部欠
0605	172	折尺	1	200×20 (折たたみ時)		
0605	173	定規	1	303×25		竹製
0605	263	二丁白書	1	165×10		
0605	298	留型定規	1	275×65		
0605	299	留型定規	1	300×75		「昭和四年十二月」
0605	300	定規	1	510×29		

0605	301	割罫引	1	175×55×74		
0605	302	罫引	1	180×220×80		
0605	303	筋罫引	1	160×160×55		
0605	304	罫引	1	90×100×40		
0605	305	自由がね	1	180×15		
0605	306	糸巻	1	120×60		カルコ附属
0605	307	下げ振り	1	—		
0605	308	墨指	1	260×5		
0605	309	墨指	1	250×5		
0605	310	墨指	1	255×5		
0605	312	筆箱	1	215×45×15		中に面相筆6点、金属製ヘラ1点

0605	313	墨	2	—		「奈良大和三山 大和園謹製」
0605	314	筆箱	1	230×45×20		金属製。中にコンパス1、鉛筆2
0605	315	コンパス	1	160×60		竹製
0605	316	文鎮	1	190×10×10		
0605	317	ノギス	2	470×40		
0605	318	朱墨	1	—		「平安 小形」
0605	319	墨皿	1	直径60×高さ30		
その他						
番号1	番号2	資料名	点数	法量(mm)	写真	備考
0605	011	鈴	1	全長55×47		金属製、大王とある、土産物カ
0605	033	下図	1	24×32		虫損あり。欄間等の飾りか？
0605	034	下図	1	24×32		虫損、汚損、ヤブレ。鉛筆書きの落書きあり。0605-034と同様の図柄

0605	039	用途不明	1	477×92		ボルト錐か
0605	042	やすり	1	190×26		
0605	043	釘締	1	160×16		
0605	045	やすり	1	208×23		柄に穴
0605	046	釘締	1	109×16		
0605	047	釘締	1	92×25		
0605	048	肥後守 (折畳式小刀)	1	221×19		
0605	051	砥石	1	251×98×37		木枠に砥石がはめ込んである
0605	052	砥石	1	89×93×47		
0605	054	名称不明	1	全長225×27 刃先50		
0605	082	マイナスドライ バー	1	210×35		

0605	083	仕切箱	1	285×198×63		蓋無、側面「大正十一年二月」
0605	085	布製道具入	1	420×250		鑿7本入 0605-086から092まで
0605	116	木組(部材)	1	150×133×110		
0605	117	木組(部材)	1	162×120×50		
0605	120	欄間彫刻部分	1	600×250×25		波、一部破損のち接着痕あり。釘穴左右にあり
0605	125	不明	1	105×105×105		2本1組の材を3つ組みあわせて+の形をつくる
0605	131	磁石(U字 大)	1	104×56		
0605	132	磁石(U字 小)	1	80×56		
0605	133	金剛砂(朝日虎印)	1	径50×18		金属製円形容器。蓋に「金剛砂 大工用 研磨用 朝日虎印 M. T.K」とある。下部に錐などで穴を空け、木片で栓をする
0605	134	ヤスリ	1	292×15		
0605	135	研金(台付)	1	293×52×26		木製台付

0605	136	研金(台無)	1	213×56×24		鑄有
0605	143	マイナスドライバー	1	250×35		先端付け替え式。金具部分に「YANKEE NO.■」とある
0605	165	木槌	1	295×122		
0605	174	破風型	1	320×30		「不用」、「藤崎宮神殿小妻破風形」とある。藤崎宮の墨書はミセケン
0605	175	破風型	1	330×27		「大津 小破風十分ノ一」とある
0605	238	彫刻刀	1	150×13		両刃
0605	239	彫刻刀	1	150×13		平刀
0605	240	彫刻刀	1	150×13		三角刀
0605	241	彫刻刀	1	150×13		切り出し刀
0605	242	彫刻刀	1	150×13		丸刀
0605	256	ドライバー (マイナス)	1	269×32		

0605	257	ドライバー (マイナス)	1	210×28		
0605	258	ドライバー (マイナス)	1	242×27		
0605	259	ドライバー (マイナス)	1	160×22		
0605	260	ドライバー (マイナス)	1	97×22		
0605	261	ドライバー (マイナス)	1	167×22		
0605	262	小刀 (鞘付)	1	191×25 鞘162×30		鞘竹製、ワレあり、上からセロハンテープで補強
0605	264	鋏	4	145×32		
0605	265	ドライバー (マイナス)	1	109×13		
0605	266	ヤスリ	1	186×22		
0605	267	ヤスリ	1	176×20		
0605	268	ヤスリ	1	187×22		

0605	269	ヤスリ	1	183×18		
0605	270	ヤスリ	1	270×25		柄欠
0605	271	ヤスリ	1	330×24		柄欠
0605	272	丸ヤスリ	1	267×6		柄欠
0605	273	丸ヤスリ (鞘付)	1	315×19		鞘付
0605	283	フックレンチ	1	335×85		
0605	284	モンキーレンチ	1	207×55		
0605	285	ニッパー	1	155×52		
0605	286	ペンチ	1	170×40		
0605	287	プライヤー	1	135×35		
0605	288	ニッパー	1	150×40		

0605	289	はさみ	1	250×50		
0605	290	フックレンチ	1	205×50		
0605	311	欄間習作 (ミニチュア)	1	55×40		
0605	320	肥後守	1	145×15		「登録商標 肥後盛菊」
0605	321	釘締	1	150×10		
0605	322	釘締	1	150×18		
0605	323	蚊取線香 (月虎)	1	110×110×40		箱入